

大運動会

平成25（2013）年11月2日（土）、緑区制50周年記念「大運動会」が、区内全28学区から代表チームが参加し、県営大高緑地野球場で開催されました。この運動会は、小学生を中心に大人も参加できる運動会として、区制50周年を記念して新たに行った事業で、スポーツを通して全学区を盛り上げ、心身ともに健康で明るいまちづくりに寄与することを目的とするものです。

当日は、曇りがちの空から時折太陽が顔を覗かせる空模様でしたが、障害物競走、大玉・キャタピラころがし、玉入れと、学区対抗で競い合い、おおいに盛り上がりました。

競技内容

種目	出場者数 (対象学年・人数・性別等)	内容
障害物選手権	6名 (小学4～6年生 各学年男女各1名)	<ul style="list-style-type: none"> ・1走者あたり半周、計3周 ・第1・3・5走者：①ジャイアントフット→②筒布くぐり→③網くぐり→④カンガルー跳び→⑤六角トンネル ・第2・4・6走者：⑥ジャイアントフット→⑦筒布くぐり→⑧網くぐり→⑨カンガルー跳び
大玉・キャタピラころがし選手権	9名 (小学1～3年生 3名、小学4～6年生 男女各3名)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1走者：小学1～3年生3名で大玉を転がし30秒先のコーンを回って中継地点へ ・第2走者：小学4～6年生の男子3名でキャタピラ（中1名、外2名）を転がし、15秒先のラインで向きを変え中継地点へ ・第3走者：小学4～6年生の女子3名で大玉を転がし、30秒先のコーンを回ってゴール
玉入れ選手権	30名 (小学1～3年生 各学年男女各3名、小学4～6年生 各学年男女各2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・前半は小学1～3年生、後半は小学4～6年生 ・前後半の切替時にカゴの高さを変更 ・40個の玉全てをカゴに入れる時間を競う
大綱引き	オープン参加	

開会式に先立ち、名古屋女子大学中学校高等学校吹奏楽マーチングバンド部による演奏演技が披露されました。軽快なリズム、元気の出るメロディーが会場に流れ、若さにあふれたキレのある演技が、大会の気運を盛り上げました。





午前9時からの開会式では、学区の幟旗を先頭に選手一同が整列し、尾藤宗男緑区制50周年記念事業実行委員会会長によるあいさつ、学区代表2名による力強い選手宣誓、入念な準備体操などが行われ、運動会は幕を開けました。

最初の種目は、小学校高学年による、障害物選手権です。小学生の足のサイズの倍もあるような大きな履物に片足を入れ進むジャイアントフットや、腰の高さまである布状の袋に両足を入れジャンプしながら進むカンガルー跳びなど盛りだくさんの難所に悪戦苦闘しながらも仲間たちからの大きな声援を受け、真剣に競い、そして楽しんでいました。



次の種目は、子どもの背丈ほどの大玉を力を合わせ転がす競技と、ウレタン製のマットを輪にしたキャタピラの中に人が入って前に進む競技を組み合わせ、大玉・キャタピラころがし選手権です。どのチームも、うまく前に進まなかったり、微妙な力加減で方向が変わったりと、思い通りにならない用具に戸惑いながらも仲間と力を合わせ一生懸命頑張っていました。



学区対抗で行う配点対象種目の最後は、玉入れ選手権です。競技は前後半に分けられ、前半を小学校低学年で、後半を小学校高学年で行い、用意された40個の玉すべてをカゴに入れるまでの時間の速さを競いました。どの学区もチーム一丸となって、力一杯カゴをめがけ玉を投げ続けていました。



最終種目の大綱引きは、緑区在住の方なら誰もが気軽に参加し楽しむことができるよう、配点の対象とならないオープン参加により実施されました。小学生から大人まで「我こそは！」という力自慢の男女約1,400人が出場し、力を合わせ綱を引っ張っていました。



すべての競技種目が終了後、閉会式が行われ、成績発表と表彰が行われました。熱戦の結果、優勝は神の倉学区、準優勝に黒石学区、3位に片平学区が入賞しました。1位から8位までの学区に、賞状と賞品が贈られました。



スポーツイベント学区総合表彰

スポーツイベント学区総合表彰は、3月の学区対抗駅伝を皮切りに11月の大運動会まで、区制50周年を迎えた平成25（2013）年に年間を通じて実施された6種のスポーツイベントについて、大会結果に応じた得点を学区ごとに計上し、その総合得点により表彰を行うもので、子どもから高齢者まで、各年代層において、気軽にスポーツに親しむことができる大会に全学区参加を呼び掛けることで生涯スポーツの一層の振興を図ろうと実施されました。

学区総合表彰の対象となったスポーツイベント

大会名	開催日	会場	トピックス
学区対抗駅伝大会	3月3日（日）	県営大高緑地 周回コース	全学区出場は11年ぶりで、28学区となった平成20年度以降では初めて
学区対抗グラウンド・ ゴルフ大会	4月27日（土）	県営大高緑地 野球場	今大会から学区対抗も取り入れ、全28学区が 出場
学区対抗O Bソフト ボール大会	5月12日（日） 19日（日）	県営大高緑地 野球場	全学区の代表28チームが出場
P T Aバレーボール 大会	7月27日（土） 28日（日）	緑スポーツ センター	全小中学校P T Aの代表40チームが出場
学区対抗子どもドッ ジボール大会	9月21日（土）	緑スポーツ センター	子ども会の会員に限定せず広く参加を呼びか け、20年ぶりに全28学区が出場
大運動会	11月2日（土）	県営大高緑地 野球場	緑区はじまって以来の、全学区出場による運 動会

全学区が協力してすべての大会に参加し、各大会の優勝はもちろん、その先の学区総合表彰をにらんだ熱き戦いが繰り広げられ、いずれの大会とも、例年にない盛り上がりを見せました。特に最後の大運動会では、一発逆転を狙う学区がしのぎを削り合い、応援にも一層熱が入りました。

大運動会の表彰後に結果発表があり、約8ヶ月間に及んだ接戦を最後に制したのは、神の倉学区、第2位は平子学区、第3位は熊の前学区でした。1位から10位までの学区に賞状と賞品が贈られ、スポーツイベント学区総合表彰は幕を閉じました。



第2位 平子学区



第1位 神の倉学区



第3位 熊の前学区

対象の6種のスポーツイベントのうち、毎年実施し全28学区出場しているのは2つのみであるにもかかわらず、スポーツイベント学区総合表彰という仕組みを取り入れたことで、区民全体が結束し、新しく実施した11月の大運動会も含め6大会すべてで全学区が出場しました。このことは、緑区の歴史上、区民の記憶に永く残る出来事となり、スポーツの振興にとどまらず、区民の郷土愛を育み、絆を深めました。

緑区制50周年記念スポーツイベント学区総合表彰得点表

学区	駅伝大会	グラウンド ゴルフ大会	OBソフト ボール大会	PTAバレー ボール大会	子どもドッジ ボール大会	大運動会	総合順位	総合得点
	得点	得点	得点	得点	得点	得点		
鳴海	20点	20点	40点	20点	20点	50点	27位	170点
相原	105点	20点	40点	40点	60点	30点	15位	295点
旭出	20点	70点	20点	30点	20点	80点	22位	240点
滝ノ水	35点	40点	40点	40点	120点	20点	14位	295点
片平	20点	20点	20点	70点	25点	110点	19位	265点
浦里	20点	25点	20点	70点	20点	20点	26位	175点
緑	85点	20点	60点	30点	60点	95点	8位	350点
平子	100点	95点	40点	30点	80点	85点	2位	430点
鳴海東部	20点	100点	80点	80点	40点	20点	10位	340点
小坂	115点	55点	60点	25点	20点	40点	11位	315点
常安	40点	50点	100点	60点	40点	70点	6位	360点
大清水	60点	120点	120点	20点	20点	20点	5位	360点
徳重	45点	30点	20点	65点	40点	65点	20位	265点
熊の前	95点	110点	20点	35点	80点	45点	3位	385点
神の倉	50点	105点	80点	60点	25点	120点	1位	440点
東丘	120点	60点	20点	25点	40点	35点	12位	300点
太子	20点	35点	20点	20点	40点	100点	23位	235点
鳴子	55点	20点	20点	20点	25点	105点	21位	245点
長根台	30点	75点	60点	20点	40点	75点	13位	300点
戸笠	25点	45点	20点	50点	25点	20点	24位	185点
有松	65点	80点	20点	30点	60点	90点	9位	345点
桶狭間	90点	85点	20点	35点	25点	20点	18位	275点
南陵	20点	20点	60点	25点	100点	60点	17位	285点
大高	80点	20点	20点	20点	25点	20点	25位	185点
大高南	20点	20点	40点	25点	25点	20点	28位	150点
大高北	110点	90点	20点	25点	20点	25点	16位	290点
黒石	75点	65点	20点	50点	60点	115点	4位	385点
桃山	70点	115点	20点	70点	20点	55点	7位	350点

※総合得点が同点の場合は、上位入賞の多い学区を総合順位の上位としています。

緑区民文化祭

緑区民文化祭は、区民の文化の向上を図るため、これまで緑区文化協会と連携して毎年開催していた「緑区民美術展」に、「緑区民作品発表展」と「緑区民舞台発表会」を新たに加え、緑区の文化の祭典として盛大に開催されました。

■ 第51回緑区民美術展

今年で51回目を迎える緑区民美術展が、平成25（2013）年9月27日（金）から9月29日（日）まで、緑区役所講堂において開催されました。

緑区在住、在勤、在学の方を対象として、日本画、洋画、彫刻工芸、書、写真の5部門の作品を募集し、209名の方から計213点（日本画26点、洋画69点、彫刻工芸30点、書35点、写真53点）の作品を出品していただき、3日間で延べ1,028人の方々に鑑賞し



ていただきました。

美術展最終日の29日には、優秀作品の表彰式が行われ、市長賞・区長賞のほか、区制50周年の年ということで特別に設けられた緑区制50周年特別賞などが贈られました。



■ 緑区民作品発表展

緑区民作品発表展は、より多くの区民へ気軽に自分の作品を発表できる場を提供しようと、区民美術展に引き続き、10月1日（火）から10月4日（金）まで、緑区役所講堂およびユメリア徳重内徳重地区会館ギャラリーコーナーにおいて開催されました。





美術展ほどの厳格な部門や規格によらず、絵画、書、写真、彫刻工芸など幅広い種類の作品を募集した結果、129名の方から作品を出品していただき、4日間で延べ338人の方々に鑑賞していただきました。

また、会期中には来場者による人気投票が行われ、後日、人気作品の表彰も行われました。

■ 緑区民舞台発表会

9日間にわたる区民文化祭の最後を締めくくる緑区民舞台発表会が、10月5日（土）と10月6日（日）、緑区役所講堂において開催されました。

これは、緑区を中心に楽器演奏、合唱、演劇、民謡、舞踊、ダンス、マジックなどの活動を行っているサークル・団体に舞台発表の場を提供するもので、22のサークル・団体が2日間に分かれ、延べ545人の方々の前で日頃の活動の成果を披露しました。次々に繰り広げられる歌や演技に、会場からは手拍子や大きな拍手が送られました。

また、緑区民作品発表展と同様、来場者による人気投票が行われ、後日、人気舞台の表彰も行われました。



緑区わがまち 俳句・川柳作品展

緑区制50周年を記念し、また緑区が、俳人松尾芭蕉が幾度も訪れたゆかりの地であることにちなみ、この地に住む区民の皆さんが俳句・川柳に親しみ、緑区の魅力を五・七・五の言葉に込め、緑区に愛着心、郷土愛を感じていただくきっかけとして、『緑区わがまち俳句・川柳コンクール』と題し、俳句および川柳を広く募集しました。

全国から俳句部門597作品、川柳部門501作品、子ども部門（中学生以下）1,154作品の合計2,252作品、6歳から94歳までの990人の方から応募をいただきました。その中から、厳正な審査により38作品が最優秀作品などに選ばれました。

平成25（2013）年5月18日（土）に開催した緑区制50周年記念式典の第二部で、各部門の最優秀作品の表彰と映像による作品紹介を行いました。また、式典会場のロビーにおいて入選作品のパネル展示をし、その後も緑区の魅力を発信し、俳句・川柳を身近に感じてもらえるよう区役所のほっとスペースや徳重地区会館ギャラリーのほか、コミュニティセンターなどの協力を得て作品展を行いました。



さらに、より多くの市民の方に緑区の魅力や作者の未来への思いを伝えるため、作品集を刊行し、市内図書館を始めとする市民利用施設での閲覧ができるようにしました。

緑区では、江戸時代より芭蕉を招き句会を催すなど、盛んに句が詠まれる土地柄であったことから、文芸を育む土壌が培われてきました。今後も俳句・川柳に気軽にふれて親しんでいただき、俳句・川柳があふれるまちを目指します。

俳句部門（一般）

■審査委員 栗田やすしさん

最優秀作品	海よりの風きて涼し千鳥塚	森 美樹さん	緑 区
優 秀 作 品	成海社の樹々立ち騒ぎ神迎ふ	浅野 扶紀子さん	緑 区
	雛の灯の洩るる紺屋の細格子	上村 龍子さん	日進市
	白梅や指しなやかに糸括る	利行 小波さん	日進市
佳 作	風花や鳴海の宿の常夜燈	小澤 昭之さん	緑 区
	砦跡飯盒焦がすキャンプの子	岡 加多江さん	緑 区
	義元の討たれし深田野分立つ	長谷川 久恵さん	緑 区
	斎田に幣を巡らし早苗取る	島崎 哲子さん	緑 区
	尺余なる芭蕉坐像に冬の菊	倉田 信子さん	天白区

春浅し翁の訪ひし千代倉家	日比 貴美子さん	緑 区
山車蔵の壁に日の斑や春近し	渡辺 かずゑさん	西 区
桶狭間合戦跡の青き踏む	綿田 征夫さん	可児市
門松や千鳥格子の残る町	柵木 充義さん	岡崎市
雪嶺の伊吹はるかや千鳥塚	山崎 文江さん	日進市

川柳部門 (一般)

■審査委員 荒川八洲雄さん

最優秀作品	未来図に緑広がるいい笑顔	位田 仁美さん	中川区
優秀作品	みどりっち囲み笑顔の絶えぬまち	み ち ん こさん	香川県三木町
	緑区に住んだら子ども欲しくなる	てんとうむしさん	緑 区
	生き生きと緑の名前似合う町	長谷川 紘子さん	知多市
佳 作	歩くほど見るほど緑好きになる	山口 和子さん	緑 区
	つわものどもの夢も静かに桶狭間	時任 敏子さん	熱田区
	有松が国内外を染め上げる	木村 律子さん	南 区
	大高の風に会うためペダル漕ぐ	花村 久実さん	天白区
	有松の四季に絞りの花が咲く	平松 由美江さん	港 区
	緑区に歴史を映す鳴海宿	寺田 やす子さん	緑 区
	新旧を混ぜて緑の風清か	松浦 美津江さん	西 区
	緑濃い町へ子連れで来ませんか	青山 良巳さん	緑 区
	新緑に子らの笑顔が芽咲くまち	ふ っ き 一さん	京都市伏見区
	広重のまなざし今も鳴海路	杉山 友美子さん	南 区

子ども部門 (年齢は応募当時)

■審査委員 山口勝行さん

優秀作品	緑区は絞りの着物似合う町	大田 あかねさん	13歳 緑 区
	ぼくの家むかしいくさがあったあと	石原 翼さん	7歳 緑 区
	みどりくはこうえんいっぱいいたのしいな	更谷 祐親さん	6歳 緑 区
	宿場町残る町並みすてきだな	伊藤 彩夏さん	12歳 緑 区
	ぼんおどり有松しぼりのゆかた着て	南出 理夏子さん	12歳 緑 区
	空澄んで鳥歌いだす楓かな	吉澤 春奈さん	14歳 川越市
	風吹けば都忘れが歌い出す	山下 明莉さん	13歳 川越市
	絞山車文化と伝統残る町	戸谷 悠夢さん	10歳 緑 区
	絞り染め伝統受けつぎ次世代へ	種 佳美さん	14歳 緑 区
	桶狭間歴史に残る合戦場	松下 歩実さん	14歳 緑 区

緑区制50周年記念講座

緑区制50周年を機に、わがまち緑区への愛着や感心を一層高めてもらうとともに、緑区の歴史や文化を広く発信するため、緑生涯学習センターにおいて、平成25（2013）年の春と秋に記念講座を開催しました。

■ 芭蕉が愛した鳴海・名古屋 ～松尾芭蕉の足跡をたどる旅～

生涯のうち4度緑区をはじめ、名古屋周辺を訪れ数多くの俳句を残している、俳人松尾芭蕉のこの地域における足跡をたどる連続講座が、5月13日（月）から7月8日（月）にかけて全5回開催されました。

初回の公開講座では、俳人としても著名な名古屋ボストン美術館館長の馬場駿吉さんを講師に招き、95名の受講者を前に、名古屋が「蕉風発祥の地」と呼ばれる背景や鳴海との関わりなどについて、芭蕉の俳句や弟子の俳人等も紹介しながら分かりやすく説明していただきました。



また、芭蕉の足跡をたどる現地講座も行い、鳴海や笠寺に残る芭蕉の句碑などの前で説明していただきました。

■ 区誌・市史が語る緑区 ～もっともっと知ろう緑区の歴史と魅力～

緑区の奥深い歴史が綴られている「緑区制50周年記念区誌」や「新修名古屋市史」、その編さんに関わった方々から緑区の魅力を語っていただく連続講座が、11月9日（土）から12月21日（土）にかけて全5回開催されました。



初回の公開講座では、「みどり小さな歴史資料館」の主宰で本誌編集責任者でもある淡河俊之さんを講師に招き、記者の目で見つけた緑区の様々な出来事や歴史的事実について興味深く語っていただき、73名の受講者が、先人の残した緑区の大切な歴史を十分堪能することができました。

また、淡河さんが収集した鳴海宿や桶狭間合戦などの版画、火縄銃・甲冑・銭箱などの武具や古道具、古文書など数十点にわたる貴重な資料の展示も行っていただき、多くの方が興味深く見学しました。

映画「うまれる」上映会 ～いのち☆キラリ～

緑区制50周年の節目の年を市内16区の中で1番の出生数を誇る緑区らしく盛り上げるとともに、子どもたちが健やかに育つ緑区を目指して、命の大切さ、子どもが生まれ育つ貴さを感じられる話題の映画「うまれる」の上映会が、平成25（2013）年7月7日（日）七夕の日に徳重地区会館体育室で行われました。

映画「うまれる」は、命を見つめる4組の夫婦の物語を通して、自分たちが生まれてきた意味や家族の絆、命の大切さ、人とのつながり、そして“生きる”ことを考えることができるドキュメンタリー映画で、上映会の企画・運営は今回のために区内の母親有志により結成されたボランティア・グループ『映画「うまれる」DEもりあげ隊』との協働で行われました。



上映は、午前と午後のそれぞれ1回ずつ行われ、延べ489名の方々に映画を鑑賞していただきました。特に午前の部では、ベビーカーによる入場も可能だったこともあり、乳幼児連れの親子など300名を超える方々で会場はにぎわいました。

当日は「子どもの笑顔☆キラリ」と題した写真展も同時開催され、事前に応募があった164点にも及ぶ子どもたちの笑顔の写真が会場を飾りました。また、午前と午後の上映会の合間には、「みどりっち」も参加しての表彰式が行われました。



歩いて知ろう、緑区の歴史 見どころクイズラリー

このイベントは、区制50周年を機に、区民に緑区の魅力や歴史を学んでもらい、まちに愛着を持ってもらおうと緑区観光推進協議会により企画されました。

緑区の史跡やおすすめスポット、イベント情報などを1枚にまとめた観光マップ「緑区あちこちマップ」を活用し、緑区の魅力を再発見してもらうクイズラリーで、平成24（2012）年12月から翌年5月にかけて、

全4回で区内5地区を巡り、延べ502名の区民が参加しました。コースの途中、歴史を活かしたまちづくりを進める市民団体「緑区ルネッサンスフォーラム」のガイドによる見どころ解説や、マップとともに配布したクイズでまちの歴史・文化を楽しく学びました。



回	日時	コース	参加者数
第1回	平成24年12月1日(土) 9時～13時	鳴海の紅葉と古刹巡り 寺々を巡り、紅葉とともに鳴海の町並みを楽しむコース 緑生涯学習センター→誓願寺→如意寺→西の常夜燈→成海神社→圓道寺→天神社→高札場→圓龍寺→万福寺→浄泉寺→瑞泉寺→緑生涯学習センター	115名
第2回	平成25年3月23日(土) 8時30分～12時30分	“無電柱化した有松”と“桶狭間の古戦場” 歴史的景観がよみがえった有松と桶狭間の戦いゆかりの史跡などを巡るコース 有松・鳴海絞会館→服部邸→竹田邸→岡邸→小塚邸→祇園寺→一里塚→高根山→七ツ塚→おけはざま山→桶狭間古戦場公園→長福寺→桶狭間神明社	142名
第3回	平成25年4月7日(日) 9時～13時	徳重の桜と水辺 徳重地域にあるため池などの歴史や扇川沿いの桜を楽しむコース ユメリア徳重→熊野社→桜の咲く扇川→大池	100名
第4回	平成25年5月6日(月・祝) 9時～13時	大高の戦国城下町と酒蔵 戦国城下町の名残をとどめる町並みや酒蔵を巡るコース J R大高駅→秋葉社→大高城跡→氷上姉子神社→酒蔵→八幡社	145名

区の木 カエデPR大作戦

平成25（2013）年4月に緑区制50周年という節目の年を迎えるに先立ち、区内の小学校を中心に区の木「カエデ」を植樹することで、未来を担う子どもたちに区の木を知ってもらい、自分たちのまちに愛着をもってもらおうと、区役所と協働で区内の緑化活動を推進する市民団体「花水緑の会」の提案で実施されました。

平成25（2013）年2月19日（火）に鳴海小学校で行われた植樹セレモニーでは、まず、区の木「カエデ」の贈呈式が行われ、今回の事業に賛同し苗木を寄贈していただいた社団法人愛知県造園建設業協会名古屋東部支部の大島博陸支部長から鳴海小学校長へ目録が、また、花水緑の会の小松嘉久会長から鳴海小学校児童会長へプレートがそれぞれ贈呈されました。これらに対し、鳴海小学校児童会長からお礼の言葉が述べられ、大島支部長からカエデについてのお話が、小松会長から植物の大切さについてのお話がありました。



その後、正門へ移動し、6年生の児童の皆さんも参加して植樹が行われました。植えられた苗木には、末永く50周年を記憶に留めてもらえるよう、「緑区制50周年記念植樹・緑区の木カエデ」のネームプレートが付けられました。

平成25（2013）年2月から行われた記念植樹は、区内の小学校を中心に全28学区へと広がり、子どもたちの健やかな成長を見守り続けています。



みどりっちスイーツコンテスト

「みどりっちスイーツコンテスト」は、緑区役所で毎年、若手職員を中心に市民サービスの向上や職場改善の取り組みについて話し合いを行う「オフサイトミーティング」で企画された事業で、緑区制50周年記念事業の一つとして実施されました。

緑区の特産品を使ったものや、特産そのものをイメージしたもの、緑区の歴史や、緑区のマスコットキャラクター「みどりっち」をイメージしたものなど、緑区らしさを盛り込んだスイーツのレシピを、区内在住、在勤、在学の方を対象に募集しました。

平成25（2013）年9月21日（土）には、書類選考による第1次審査を通過した5作品による第2次審査が徳重地区会館実習室で行われ、黒川和博緑区長を始めとした審査委員8名が実際に試食し、グランプリを含め優秀作品3点を選びました。いずれも、緑区を愛する気持ちの込められた、創意・工夫あふれる作品ばかりで、どの審査委員も大変苦労されているようでした。



※写真左から、グランプリ受賞作品「有松トマト絞りクッキー」（作：中山麻実さん）、準グランプリ受賞作品「ありまっぷりん」（作：渡辺絵美さん）、優秀賞受賞作品「きよほ〜リッチ!」（作：古川八千代さん）

グランプリ受賞作品は、レシピを基に区内洋菓子店のご協力により商品化され、「みどりっちのお・や・つ」として、トマトジャムがサンドされた「有松鳴海絞りトマトクッキー」と旬の柿のジャムがサンドされた「有松鳴海絞り次郎柿クッキー」の2種類のスイーツが誕生しました。平成25（2013）年10月26日（土）に開催された緑区区民まつりでは、緑区制50周年記念ブースにて「みどりっちのお・や・つ」が初めて紹介・販売され、お昼過ぎには完売するほどの人気を博しました。



オリジナルフレーム切手「緑区制50周年記念」

区制50周年を記念して、日本郵便株式会社東海支社と緑区制50周年記念事業実行委員会との共同により、オリジナルフレーム切手「緑区制50周年」を発行しました。

このフレーム切手は、切手部分に緑区内の名所や町並み、風物などを取り入れ、切手シートの上部分には、「みどりっち」などの緑区のゆるキャラやお祭りの風景などを配した、緑区制50周年記念のオリジナルデザインとなっています。

- 販売開始日 平成25（2013）年4月1日（月）
- 販売部数 1,000部
- 販売郵便局 緑区内の郵便局（20局）
- シート構成 1シート 50円切手×10枚（オリジナル台紙付）
- 販売価格 1シート 900円



- 1 みどりっち
- 2 鳴海のお祭り（山車揃）
- 3 猩猩
- 4 鳴海配水塔
- 5 ユメリア徳重
- 6 大高の酒蔵
- 7 山車（神功皇后車）
- 8 有松の町並み
- 9 有松・鳴海祭り
- 10 桶狭間古戦場公園

第2章 特集

座談会「わがまち わが思い出」

平成25（2013）年9月19日（木）に緑区役所において座談会を開催し、緑区とともにあゆみ、長年にわたり緑区を見つめてこられた方々に、郷土にまつわる「わが思い出」を語っていただきました。

出席者（敬称略、順不同）

○ 出席者

尾藤 宗男（緑区制50周年記念事業実行委員会会長）、大角 輝夫（緑区区政協力委員協議会副議長）、藤枝 静次（緑保護区保護司会名誉会員）、田中 光代（緑区地域子ども会育成連絡協議会相談役）、成田 治（元緑区ルネッサンスフォーラム会長）、田村 さつき（緑区地域女性団体連絡協議会会長）、黒川 和博（緑区長）

○ 司会進行

淡河 俊之（区誌編集責任者）

緑区との関わり

淡河：皆さんは長年にわたり区政運営に貢献されてきたわけですが、そのきっかけを含めて、緑区との関わりをお話いただければと思います。



成田 治さん

成田：私は生まれも育ちも有松です。私の先祖が、天明の大火の後に本星崎から有松へ引っ越し、それから200年ほどたちますが、ずっと有松で暮らしています。私は、会社務めをしていましたが、退職して直ぐに、地域の歴史を学ぶ講座が開かれていた生涯学習センターに入りました。有松だけでなく大高や鳴海の歴史をもっと知りたいと思ったからです。勉強を始め少し経ったこ

ろ、区役所の呼びかけで、ルネッサンスフォーラムができることを知り、緑区から由緒ある名前が消えることへの危惧。歴史資料館建設の思いを持っていたこともあり、設立から会の運営にも参画して会長も務めました。また、有松を訪れる人に町の歴史を案内する「有松あないびとの会」を立ち上げ、多くの仲間と協力して、古い町並みなどを回って紹介しています。緑区は人口も増え新しい人が多くなりましたが、歴史だけでなく大

高、鳴海、有松、桶狭間といった地域の様々な特色も知っていただきたいと活動をしてきました。

藤枝：私は自然に囲まれた甲斐の国で生まれ、庭から富士山の雄姿を眺めながら育ちました。緑区に住まいを定め、桶狭間合戦に縁のある大将ヶ根の地名が気に入って約45年になります。暮らし始めたころは家も少なく、長靴が必需品で、記念碑山と呼ばれた山も新幹線建設用土として搬出され消滅するなど、付近一帯は新しい町に大きく進化しています。スポーツが好きで、緑区では体育指導委員や協会役員を務め、健康、生きがいづくりを実践してきました。私は保護司でボランティアにつとめ、厚生保護、犯罪予防活動などに取り組んでいます。これまで多くの人と接してきましたが、人には悪い人はいない。共に支え合う絆が必要ということを知り、年齢には関係ないという気持ちで、生涯現役で地域発展のため活動しています。最近では、名古屋市有形民俗文化財の山車3輦を持つ、天満社文嶺講の総代長として、江戸時代から続く祭事・神事を無事に営めるよう、また、大切な文化を後世に継ぐべく研さん努力をしております。



藤枝 静次さん

淡河：天満社は有松の氏神で、藤枝さんは鳴海にお住まいと聞いていますが。

成田：有松は土地が狭く、神社を建てる土地がなかったから、天満社は鳴海に建っているんですよ。だから、行政の区分けじゃなくて人と人とのつながり、絞りを中心にした交流は昔から進んでいたと思います。歩いてみても鳴海は広く、有松は狭いのがわかります。歴史も新しいですね。有松は絞りで町が成り立っていたので、明治になって町長という職務ができて、絞り屋の大店が町長を務めてきたわけです。だから、祭りに関しても、絞り抜きには考えられません。絞り問屋の大御所がお金を出し、山車も購入して祭りを盛り上げてきたのです。町の人が力を合わせて山車を曳くことが町の発展にもつながる。絞り屋さんも上手に祭りを使っていたわけですね。私はそう思うんですよ。

尾藤：私は岐阜の郡上生まれです。こちらに来たのは昭和45年ですが、そのころは本当にリヤカー道で、真ん中に草が生えていました。ガスもなければ水道もありませんでした。もちろん下水も。私は山育ちの人間ですから、春になると蕨を採りに出かけていました。たくさん採れましたからね。常安の辺からずっとありました。それから、一番思い出に残っているのは小坂の山です。白い鷺草がびっくりするほどいちめん咲いてそれは見事なものでした。それが印象に残っています。あの辺はまだ山で、六田の辺はずっと田



尾藤 宗男さん

んぼだったんです。今の鳴海中学がある辺も全部田んぼでした。私が来たのは6月だったので、窓を開けると、蛍がぱっと飛び込んで来ましてね。蛍がいるぞって、みんなを呼んだ覚えがあります。その後、学区ができました、最初に募集があったのは消防団でした。そこで、家内が消防団に入ったと言ったんです。そうすれば友達もできるからと。町内の色々な付き合いができたのは、それが出発

点です。そうして消防団員として活動していた時に、たまたま町内会長の順番が回ってきまして、最初の仕事として手掛けたのが盆踊りを町内でやろうよということでした。そういうことを色々やってきて、今は委員長をやっております。

区長：昭和54年ですね。相原小学校ができたのは。

尾藤：そうそう、昭和54年です。今年で35年ですね。

淡河：相原は古くからの町ですが、学校は鳴海小学校に通っていたのですね。

尾藤：相原って土地名は藍の郷という意味です。藍の原っぱですね。

淡河：お住みになったころ、まだ、藍は生えていましたか。

尾藤：私の時はもう。小学校の校章に藍が入っているだけでした。

大角：私と緑区との関わりは、大学4年生だった昭和35年ですが、その時に鳴海中学校に非常勤講師にと言われたのが最初です。その次に緑区に関わったのが、確か昭和39年だと思いますが、鳴海の山ノ神に鳴海中学校から独立した中学校を開校することになり、鳴海中学校の分校として1年間、その開設の前後を手伝って、中学校の名前を千鳥丘と決めて8年間勤めました。それから



大角 輝夫さん

後は、色々な学校を転々としておりまして、教員を終えたわけです。その間、結婚して新居を持つことになり、ほら貝の一番奥の方に建て売りがあるからと見に行きました。その時は鳴子からみどりヶ丘まで赤土だらけで、長靴でなければ歩けないという状態でしたね。それからずっとここで生活してきたのですが、これでも緑区かというくらいのはずれで、町の体を成してきたのは、鳴子やみどりヶ丘の辺りに住宅が建ち、戸笠小学校ができて、それを中心に住宅が建ち並んで今のような状態になってからですね。あの辺は神社もお寺も全くないところで、地域のつながりというのはほとんどなかったです

ね。定年になって3年経ったところに、ちょっと暇だろうから地域の仕事を手伝えと言われて、いきなり副委員長、その翌年には委員長になったというところですよ。それからたっぷり11年間委員長を務めさせていただいている状態です。

成田：何にもないところでしたね。

大角：何にもなかったです。どこかに遊びに行こうかというのと、今の鳴子団地の東、あの辺の山にみんなで遊びに行った覚えはあります。そのころは本当に山ですね。こんなに開けるなんて想像もつきませんでした。

淡河：昭和40年ころに、時代の先端をいくような、人工スキー場がありませんでしたか。

大角：ああ、ありましたね。あれは40年代の半ばか後半かでした。市バスの相川三停留所前で今の大型商業施設の少し東側です。



田中 光代さん

田中：私のころは、任意団体なんですけれど、子どもが1年生になると、子ども会に自然に入会するようになっていました。それから35年間、ずっと子ども会の活動をさせていただいています。新舞子の向こうに大野という町があるのですが、私は昭和33年にそこからお嫁に来ました。初めて見た扇川の流が絞り染で、赤、黄、緑など、毎日のように色とりどりに変わるのにはびっくり

りしました。それから色々なことがありましたね。皆さんがおっしゃっていましたが、六田の一带は田んぼが広がっていました。蛙がびよんびよんと飛び跳ねていて、車に乗るときはひかないように避けていました。鳴海小学校の下に万福寺というお寺がありますが、あそこには蛍がいっぱいいましたね。鳴海駅から家に帰るのは砂利道でした。素敵な靴を履いていてもすぐに駄目になってしまいました。ですから、スリッパみたいなものを持って駅まで行って、そこで履き替えていました。あのころは大変でしたね。でも、住まいが高い所にありましたので、見晴らしがとってもよくて港まで見え、家に着くとほっとしました。潮見が丘なんです。本当に素晴らしい景色でした。それから、今の市民病院のことを皆さんが、野戦病院って呼んでいました。前の病院って、病室の中がみんな板張りで、治療室もみんな板なんですね。それが、野戦病院の雰囲気だったのでしょね。文木から向こうは山と畑ばかりでした。

田村：私は、岐阜県加茂郡八百津の奥、中山道裏街道沿いの築300年といわれた古民家で尾張藩の御免医師・林玄良を先祖として生まれました。高等科卒業時に進路を決める時、太平洋戦争中のことですから従軍看護婦に憧れまして、願書を出したんです。学校から

連絡を受けた父は「戦争に行くのは男だけでいい、これからどんな時代になるかわからん、女も手に職をつけておくことが必要だ」と矢場町の名古屋ミシン工芸女学校に願書を出したんです。当初は大曾根の叔母の家に世話になりましたが、従姉妹がまだ小さく宿題ができません。困って、大高の叔母の家に厄介になったのが緑区との縁の始まりなんです。当時は、笠寺駅はありませんから熱田駅まででしたが、汽車通学も大変でしたよ。

淡河：それはどうして大変だったのですか。乗る人が多かったということですか。

田村：当時汽車の本数は少なかったですし、通勤、通学の人が一挙に乗りますから遅れたらデッキに掴まるしかなかったんです。事故がなかったのを不思議に思いますよ。

成田：名鉄電車でもそうでした。みんな、ぶらさがっていましたね。

田村：名古屋空襲が昭和20年でした。兄が招集され、戦時中の政策食料増産に応えるため

に人手が足りなくなったというので田舎に帰り農協に勤めながら農業をしたんです。戦後間もなく叔母から「夫の復員が遅いから万一に備え、住み込みで洋裁を教えてほしいという知人がいる、何とかならないか」と頼まれました。兄も復員し結婚したのを機に農協を退職し再び大高に住むことになり、夫との縁につながりました。なぜ女性会と私と縁ができたかと言いますと、当時



田村 さつきさん

は婦人会と言っていました。昭和38年に会長選出が難航し、初代会長の教え子だった夫が口説かれて会長にされたわけです。当時の会員は800人ほどおりましたね。

藤枝：今は、そういうことを本当にやらなくなってしまいましたね。地域社会というのはコミュニティ社会の典型だったのですけれどね。

成田：それにしても、大変だったでしょうね。有松の方も封建的だけど、大高も古いですからね。それだけに、婦人会が何かやろうということは大変だったと思いますよ。

田村：男は外で働き女は家庭を守るという意識はなくなっていたといえ、きれいごとになります。多少気兼ねしながら活動に参加する人もあったと思いますよ。

成田：女性の集まる会合なんて昔はなかったですね。男社会ですから。

田村：田舎のことですが、女の人ばかり集まることはありましたよ。

淡河：それはいつごろの話ですか。

田村：子どものころのことですが、夜になると御詠歌とか念仏講だとかいって出かける母のことを覚えています。

淡河：念仏講は今でもありますね。

成田：今もありますよ。桶狭間なんかは葬式をやったら必ず次の日に。もう有松も鳴海も

なくなりました。桶狭間はやっていると思います。大高はやってないですか。

田村：大高でも、太々講、山の講、太師講、無実講（一般には、むしちこ講）などがあったようですが、最近は聞いたことないですね。

淡河：昭和40年代にはあったような気がします。

成田：40年代くらいはまだやっていましたね。大高、鳴海、桶狭間…、桶狭間は今はどうでしょうねえ。

郷土料理

淡河：食べ物の話ですが、大高は「藤竹飯」が、桶狭間には「たまり飯」がありますね。お尋ねしてみると、名称は違いますが内容はほとんど同じです。有松、鳴海には何か特別な料理がありますか。

成田：鳴海もたまり飯です。もっとも、今はたまり飯って言わないですね。ほとんどの人が味ご飯だとかまぜご飯だとか、色々の名前で呼んでいます。

区長：緑区というかこの辺の地域では何を入れるのが主流ですか。

成田：だいたい季節のものですよ。竹の子、ふき、しいたけ、人参、かしわ。

田村：鶏は飼っていましたからね。

区長：鶏を飼っていたところが多かったのですか。

田村：鶏は家で飼っている人が多かったですからね。すきやきを「ひきずり」と言っていましたかご存知ですか。

区長：それはどういう意味ですか。

田村：一人ひとりが鍋からとって食べることを「ひきずり」と言っていたんです。

成田：あれは肉はかしわでしたか。

田村：戦前はかしわ、最近は牛肉が主になっていますね。

成田：鳴海も有松も、ひきずりはかしわですよ。

田村：戦前はかしわしかなかったものね。

成田：だいたい、鳴海でも大高でもそうじゃないですか。それと、今でも、名古屋飯っていうとみそかつとか言いますでしょう。味噌が主流ですよ。大高でもそうなんじゃないですか。味噌はみんな自分の家で作るんですよ。だから、たまり醤油ですよ。私たちが子どものころは醤油のことをたまりと言ったものです。

淡河：たまりは味噌を家庭で作るときにできるのですね。

成田：味噌が主流ですよ。なんでも味噌でした。それこそ大高菜も味噌煮にして食べまし



黒川 和博緑区長

た。赤味噌ね、あれをあったかいご飯につけて食べると美味しいんですよ。だけど、1年物じゃなくて古い順番に使っていくんです。

田村：今は家で味噌を作っている人は少ないでしょうね。

淡河：大高では正月のお雑煮に大高菜をいれますか。

成田：有松でもそうです。自分の屋敷に種を蒔きましてね。それからお盆の15日の夜に、昔は精霊を流すといって供えた花だとかを川に流したんです。今はできませんが、12時になると提灯をつけて川に流しましてね。その日は四食食べるのですが、味噌汁の具が大高菜です。それが昔からのしきたりです。

生活・風習

成田：私が子どもの頃、6月か7月ですかねえ。昔はみんな井戸でしょ。井戸さらいをするんです。嫁に来た時にはなかったですか。

田村：家はそぶ水でした。鉄分が多いものですから水を濾して使うんですが、手拭も洗濯物もだんだん薄茶色になってくるんです。鉄分を飲んだ影響でしょうか。夫も兄弟も白髪は1本もありませんね。

淡河：大高の水は鉄分が多いですか。でも、酒を作っていますね。

田村：鷺津の一角の現象で、他の地域はいい水が出ていましたよ。

成田：私たちが遠足に行く時は水筒を持って行きました。我々は遠足っていうとバスじゃないですからね。どこかの井戸を借りたら、ここはそぶ水だとか地形によって、結構ありましたよ。

田村：私が結婚した当時は、焚く物っていうのは山に行って「ご」をかいてくるんです。

成田：私のところも「ご」です。区長さん、「ご」って分かりますか。

区長：知りません。

成田：昔は大高緑地に松の木がたくさんありました。池を挟んで真ん中辺の道が分かれるところに松の木が何本も植わってましてね。その道のところに「ご」がいっぱいありました。松葉が枯れると落ちるんですが、それを「ご」と言いました。

田村：松の落葉を拾ってきて燃料に使ったんです。

区長：松葉なんて特に油分が多いですからね。

成田：だから、私たちの同級生から上くらいは、「ご」をかいてきてアルバイトをしていました。そのころはアルバイトとは言わないですが。とにかく、戦後、大高山が全部丸坊主になっちゃったんです。生活のためにみんな切ってしまっ



淡河 俊之さん

田村：すごいことをしたものです。

成田：仕方がないですよ。焚き物がないですから。神社の木まで切ったのですから。天神山も大木は残して雑木をほとんど切り、禿山になってしまいました。

淡河：それだけ燃料がなかったということですね。

祭り

成田：最近、祭り呼ばれというのがなくなりましたね。昔は祭り呼ばれというのがありましてね。祭りの日には近くに住む親せきなどを招待したものです。呼んだ人には朝から作ったいなり寿司や巻き寿司を食べさせて、またそれを土産に持たせるので、女の人は朝から大変でした。結婚して嫁さんが来ると、嫁さんの在所を呼んだりします。祭りのときには、けっこうおみえになりますから。私のところも、家内の在所から2、3人が交代で来ましたよ。祭りには狸々がつきものですが、私の町内の狸々は新しいものです。子どものころ東町にあって、私の町内にはなかったです。鳴海駅の横で、おばが米屋をやっていて、そこに行ったら狸々が置いてありました。それが怖くて。幼稚園の時ですよ。宴会のとき親父の後ろにいて、ふと見上げると狸々と目があってしまい、今でも怖かったことを覚えています。でも、5年生、6年生と年が上がってくると、あの狸々をかぶりたくて。私は割合背が大きかったものですから、中学1年生の時にガキ大将にかぶれと言われましてね。だから、天神さんの境内で狸々をかぶらせてもらって、嬉しくて。とりえはないけれど、足だけは速かったものですから。

田村：子どもたちを追っかけたんですね。

成田：東海道をね。ちょっと前かがみで走るんです。隠れていて、狸々を松の木からひょいと出すとかもやりました。

田村：狸々に追いかけられた体験は、子どもたちにとっていい思い出になるでしょうね。

尾藤：私は、最初に町内でお祭りに入るのに、酒一升持って行きました。そうしたら、狸々をかぶれって言われて、最初に入った時に狸々をかぶりましてよ。



自然・景観

大角：今、戸笠学区にある螺貝池には葦がいっぱい生えていますが、そこに珍しい野鳥が来るといことで、毎日カメラを持った人が並んでいます。

淡河：戸笠小学校の南ですね。桜が綺麗で季節にはにぎわいますね。

尾藤：野鳥もこのごろ都市化してきていますよ。扇川のカワセミなんか、人がいてもおどろかないですからね。

田中：扇川にいるのですか。

尾藤：いますよ。昔はい wasn't でしたが、それだけ川が綺麗になったのか、ほかに住む場所がなくなったのかのどちらかです。

藤枝：土手をコンクリートにしちゃうと駄目ですね。土手に穴を掘って、そこに生息しますから。だから、そういう鳥たちの住みやすい環境を作っていないと。

成田：そういえば、大高緑地で、蛍が最近復活しましたよね。

田中：川の流れがなくても蛍っているのですね。

成田：水があって多少は竹藪があるとね。公園の担当者の方も農薬を撒くのを上手く調整してくれているらしいですよ。だから、蛍も出てくるのです。杓子定規に雑草が生えるから、枯らす作業をしてしまうと、蛍なんか全滅です。

尾藤：細根山にもいます。姫蛍です。蛍会がありましたよ。

成田：昔は、我が家なんか、蛍が家の中に入ってくることもありました。やっぱり、姫蛍は竹藪があるといいらしいです。昔は竹藪がいくらでもありましたから。竹の子も勝手に掘りましてね。

田中：今は竹の子も採ったら駄目ですよ。

成田：大高緑地の入口近くにイチヨウの木があるでしょう。やっぱり、銀杏を拾いに来る人がいるらしいですね。シイの木とかもあります。今の人はシイの実が食べられることもあまり知らないでしょう。

区長：野いちごだって見たことないですからね。

田村：かつて、扇川の土手に木いちごが黄色く実ると、子どもたちは競っていちごを採りに行ったものです。家に集まったときなど、時々子どもたちの話題になっています。

成田：扇川は昔はゆるやかに蛇行していました。私が天神さんのところを通ってくると、家なんかいないですよ。すぐ下が扇川です。それで、水車がありましたね。

尾藤：今、水車があったところの跡地にちゃんと看板が出ていますね。

成田：鳴海球場も緑区の大きな観光資源なんですよ。昔は、鳴海球場があることすら知らない人が多かったのですが、最近はPRの成果もあり、わりと鳴海球場の存在価値を知ってもらっていますよ。

田中：観覧席もまだちゃんと残してありますものね。

未来に向けて

淡河：これから50年後の緑区に向けて、何か言葉をいただければと思います。

尾藤：人口がどれくらい増えるのでしょうかね。

区長：そうですね。30万人までいくかどうかじゃないですか。

田中：これまでの50年と同様に素晴らしい発展を遂げてほしいですね。

尾藤：住みよいところであってほしいですね。私たちはこういう時に生きているからよかったです。

田村：更に人口も増え、日本人だけではなく国際化した緑区として発展すると思います。期待しましょう。

成田：昔は、外国人なんてそう見られなかったです。けれど、今は私たちの仲間にも、ハーフの人たちがおりますでしょう。自分の近くにもそういう人が出てくるからだいぶ慣れました。だから、そういう新しい時代の到来は間違いないですね。

藤枝：子どもたちに「しんの友」を作ってもらいたいですね。しんの付く言葉って、思いつくだけでもいくつありますか。親しい人、真の友、信じられる人、新しい人が浮かぶとおもいます。その中に本当に気の許せる人はいますか、そういう友が5人、10人いるという人がいますが、よく聞いてみると、本当に親しくて信用できる人は、なかなかいるものではありません。「しんの友」これを絶対作ってほしい。これが住みやすい、暮らしやすい緑区にもつながり、本当の絆が生まれると思います。

区長：皆さんのご労苦が礎となって今の緑区があると思っています。この緑区の発展に大きく貢献していただき感謝の気持ちでいっぱいです。私たちも努力いたしますが、これまでの活躍、あるいは活動を絶やさないように、ぜひとも次の後継者を作っていただいて、新しい世代、若い世代へこれまでの皆さんの功績などを引き継いでいただけるようお願いしたいと思っています。これからもお元気で緑区のために力をお貸してください。本当に今日はありがとうございました。



未来へのメッセージ ～将来の緑区像～

平成25(2013)年10月26日(土)に開催された緑区区民まつり「祝50周年!みどり・シテイ・フェスティバル2013」において、「将来の緑区へ託すメッセージ」として、皆さんが想像・期待するまちの姿をお聞きしました。



みんなが思い描く「20年後、30年後の
緑区」を紹介するよ♪

みんなで仲良く暮らせるまち
(女性 10歳未満)

ほとんどの事が機械でできるまち
(男性 10代)

まちの中に動く歩道があっ
て、警察ロボットもいる
(男性 10歳未満)

イベントの多いまち
(女性 10代)

犯罪、事故ゼロのまち
(男性 10代)

日本の首都になっている
(男性 40代)

近くの人と仲よくできるイベントが
たくさんあるまち
(女性 70代)

昔の町なみでみんな楽しく生活して
いてほしい

(女性 10代)

治安が良くて、モラルがあるまち

(男性 30代)

大高緑地にも地下鉄が走っている

(男性 80代以上)

緑いっぱい、花いっぱいのまち

(女性 30代)

有松絞りや鳴海絞りがもっ
ともっと全国に広まってい
るといい

(女性 60代)

空飛ぶ車が走るまち

(男性 10代)

若い人や子供たちがたくさん住んで、
緑の多いまち

(女性 50代)

交通事故のない安全で緑の多いまち

(女性 40代)

今よりも交通機関が充実し、車がなく
ても移動しやすいまち

(男性 20代)

子供が結婚しても緑区に住みたいと思えるような、治安が良くて明るいまち

(女性 30代)

公園がたくさんあって、木もいっぱいあるまち

(女性 10歳未満)

歴史を伝えるまち、子供が多くなるまち

(男性 60代)

オリンピックを開催している

(男性 40代)

子供が遊べる公園がたくさんあるまち

(女性 10代)

きれいで、住みやすいまち

(男性 10代)

戦争がおきない平和なまち

(男性 10歳未満)

伝統を大切に、地域のつながりを大切にした住みやすいまち

(女性 40代)

公共交通機関が発達して、お店がたくさんあるまち

(女性 30代)

地震に備えていて、大きな地震がおきたとしても被害が少ないまち

(女性 10代)

自然と文化がマッチしたまち

(男性 60代)

引っ越してきた人も友達ができやすいまち

(女性 40代)

子供から大人まで一緒に楽しめるスポーツ大会のあるまち

(男性 30代)

大高緑地で野外フェスライブを行う

(男性 30代)

赤ちゃん、子供、老人と一緒にコミュニティで教育したり遊んだり、しつけをしたりしている風景があちらこちらで見られるといい

(女性 60代)

緑や自然いっぱいの住みやすいまち

(女性 20代)

今よりも知名度が高くなっている

(男性 10代)

子供から老人まで地域に密着したまりづくりが進んでいる

(女性 30代)

お花畑がいっぱいになってほしい

(女性 10歳未満)

名古屋市内で一番のまち

(男性 70代)

ゴミのないきれいなまち

(女性 30代)

みんなが幸せで毎日笑顔で
暮らせるまち

(男性 10代)

犯罪がなく、近所との仲が良いまち
(男性 10代)

安全・安心、心配のない子育てができる
まち

(女性 20代)

人がいっぱい
のまち
(女性 10代)

光る道がある
(男性 10歳未満)

農村と街がバランスよく存在する
まち

(男性 40代)

都会の中にも自然が多く、地域のつな
がりが多いまち

(女性 30代)

伝統を大切にしながら先に進むまち

(女性 50代)

犯罪のないまち
(男性 30代)

子どもが笑って、緑がたくさんある
まち

(女性 30代)

おじいちゃん、おばあちゃんが元気に
外出できる安全なまち

(女性 70代)

子どもからお年寄りまで笑顔であい
さつできるまち

(男性 40代)

大高緑地のような自然と動物が共生
する緑地が残るまち

(男性 40代)

歩道がしっかりしているまち

(女性 10歳未満)

地下鉄や高速道路の利便性を活かし、緑区ブランドを築いて名古屋市だけでなく
日本でも有名になってほしい

(男性 40代)

周りの人が優しいまち

(男性 10代)

緑にあふれながらも先進技術を活か
したまち

(女性 30代)

バリアフリーな環境が増えて、車イス
でもイベントなどに参加できる

(女性 40代)

緑がもっといっぱい、子
供が多いので大きな遊園地
がある

(女性 40代)

子供から大人まで安心して暮らせる
まち

(男性 20代)

高齢者に優しいまち
(女性 30代)

子供が楽しく過ごせるまち
(男性 10歳未満)

風車やソーラーパネルがあってエコなまち
(女性 10代)

笑顔とみどりがいっぱいの世界一住
みやすいまち
(女性 30代)

子供と高齢者のふれあいのあるまち
(男性 70代)

今よりも交通機関が充実し、車がなくな
っても移動しやすいまち
(男性 20代)

みんなに自慢できるような素敵な
まち
(女性 10歳未満)

素敵な「将来の緑区像」を考えてくれてありがとう！
緑区に住んでいてよかったと思えるようなまちを、
みんなで一緒につくっていきましょう♪

